



廣東會館俱樂部
會報誌

http://www.kanton-kaikan.jp
2019年12月15日号

粵報

2019
冬号
12月

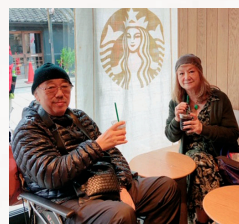
THE CANTONESE CLUB SINCE 1953 YOKOHAMA

廣東會館俱樂部

10/24
(木)

秋の懇親バス旅行

小江戸川越



10月24日、小江戸川越へ日帰りバス旅行を開催しました。小江戸をイメージして作られた街並みは風情に溢れ、良質な和菓子や乾物等のお土産、そして名物のうなぎを堪能し、その絶妙な焼き加減による芳醇な香りは口の中から鼻を突き抜け、脳内を駆け巡りまさにうなぎ登り。大海から生まれ故郷に帰るうなぎの生涯の大冒険を瞬間的に実感できました。散策中には明治時代の建物も残っており、味覚も視覚も楽しめ、バス内ではさくばらんに話も弾み、思いに残る一日となりました。

理事・渡邊 大修



小江戸川越
いね～!



2020年春節新年會のご案内



新しい年はじまり「春節」に仲間と親睦を深めるとともに、この一年の活動の予定や抱負を語り合う場として、新年會を毎年開催しております。豪華景品や楽しいゲームで盛り上がりましょう！ご多忙とは存じますが、是非ご出席ください。



期日 2020年1月25日(土)
開場 18:00～
開宴 18:30～
会場 中華菜館 同發 別館
会費 會員¥2,000 (ビジター¥8,000)

みんなで新年を祝おう！

◎新年會の出欠のご連絡は、同封ハガキにて返信をお願いします。
◎締切：2020年1月10日(金)必着をお願いします。

廣東獅子團

「きたもん祭」に参加

11月3日
(祝日)

私たち廣東獅子團は11月3日に開催された「きたもん祭」が主催する「きたもん祭」に今年も出演にさせて頂きました。書道家の玲泉さんと「獅子舞×書道」という初のコラボで迫力あるパフォーマンスと演舞で大成功に終えることができました。来街者の皆様にも楽しんでいただけたと思います。これからも獅子團の応援よろしく願います。

廣東獅子團副團長・渡邊大修



書道家の玲泉さんと廣東獅子團の共演

年末年始休館のお知らせ

下記年末年始の期間、事務局は休業致します。ご不便をおかけしますが、何卒よろしくお願い致します。

年末 12月28日(土)
年始 1月5日(日)

※12/31(月)大晦日は團拜の時間のみ開館。
※1/6(月)より通常通り開館致します。

除夕拜神禮のご案内

大晦日に関帝廟と媽祖廟へ團拜に参ります。廣東獅子團と一緒に奉納舞をします。最後に會館へ戻りみんなで年越し蕎麦を食べます。参加希望の方は12/26(木)までに事務局までご連絡下さい。



期日 12月31日(火)
時間 14:00～
集合場所 會館1階ホール
参加費 無料

2020年度会費納入のお願い

<年会費納入先>

◎横浜華銀 廣東會館俱樂部
口座番号：0036487
◎湘南信用金庫 元町中華街支店
廣東會館俱樂部 口座番号：0024123
※年会費の納入は、自動振替用紙(華銀専用)で手続きされる事をお勧め致します。

新年會で年会費
納入可能です!

年会費は一個人一律 ¥5,000です

廣東會館俱樂部

発行：廣東會館俱樂部
〒231-0023 横浜市中区山下町118-2
TEL: 045-681-9997 FAX: 045-228-9929
http://www.kanton-kaikan.jp
事務局員在館時間：月曜日～金曜日10:00～16:00



粵報は、廣東會館俱樂部と會員を、そして會員同士を繋ぐコミュニケーション會報誌です。どうぞ、皆様の生活にお役立て下さい。ご意見ご希望等は事務局までお気軽にご連絡下さい。皆様の意見が廣東會館俱樂部を育てます。

「装いの横浜チャイナタウン」 気づいたこと・感じたこと：

「横浜ユーラシア文化館」
伊藤 泉美 副館長
廣東會館俱樂部 會長
會員

座談会

となり、横浜華僑の「人生」も知ってもらえたらいいなと思っていました。
【司会】 展示にはそのような意向が込められていたのですね。ところで、周會長と伊藤先生の繋がりはいつ頃からでしょうか？

【周會長】 伊藤先生には昔からお世話になってます（笑）。

【伊藤先生】 今回の展示をやるうと決めた時に、「古いチャイナドレスを所蔵していらっしゃる方：」ということで思い浮かんだ方は、同發のお母様（周會長の母）です。昔から中華街のレセプションなどで、すてきなチャイナドレスを着ていたことを思い出し、間違いない！と思いました。私は単に「コレクションを飾る」というより、その衣装を着ていた人の「背景やストーリー・人生」を紹介できるのは中華街だけだと感じていました。

【周會長】 実はこの展示会を妻と娘も拝見させていただきました。実家にはまだ母のチャイナドレスを保管しています。残念ながら私が着る事ができませんので、妻と娘にどうかと聞いたところ、サイズが合わないという事なので、このまま置いておくのも何なので、寄付させていただきということになりました。妻は母より背が高いので、丈が合わず残念ですが…。

【伊藤】 周さんのところは衣装が沢山あるんですよ。3回に分けて拝見させていただきました。周會長のお母様は、ほぼ中華街で中国服を作られており、（ネームタックで判別）服の裏側見ると職人の裁断や処理の仕方、ボタンなどから鴻昌で作られていたようです。表だけみてもわからないですよ。昭和の30、40年代くら



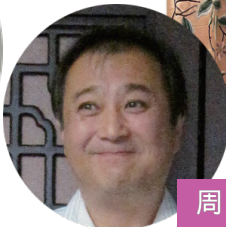
伊藤 泉美先生



張 雅齡さん



區 監事



周 會長

本年4月、6月に横浜ユーラシア文化会館で開催された「装いの横浜チャイナタウン」の企画・監修をされ、横浜華僑の歴史を長年研究されている伊藤泉美先生と、廣東會館俱樂部會員（本展に協力された會員：張雅齡さん・區傳宗監事）と周慶錦會長で座談会が9月21日に開催されました。伊藤先生より、企画展の裏話やエピソード等、お茶を飲みながら「座談会」というリラックスした雰囲気の中で、お話を伺いました。

※なお、本展では廣東會館俱樂部からの寄贈品（旗袍）3点が展示されました。

いまでは中華街の中でチャイナドレスを作るお店がいくつかあったんですよ。

【張雅齡】 小公園の隣（現：大新園）が昔チャイナドレスのお店でした。

【伊藤先生】 香港服飾公司ですね。

【張雅齡】 そうそう、香港路のところにも一軒ありました。あと善隣門脇の香港飯店の人がチャイナドレスを作っていました。

【伊藤】 香港服飾公司に居た人が、こちらにお店を出したようです。日本人の奥さんで：現在90歳代のご高齢で、一度お会いして来ました。

【張雅齡】 そうそう、私はほとんどそこで作ってた。お色直しのピンクのドレスもそこで作りました。

【伊藤】 今回廣東會館さんのお陰でいろいろな



※1 右記婚礼で着用された旗袍



1929 年 張方廣・張陳卓華 婚礼写真
【写真所蔵：張雅齡】

方がまだ衣装をお持ちだということがわかりました。また、グア（褂：婚礼衣装）も持ちですよね？

【張雅齡】 多くの廣東の人はまだ褂を持っています。寧波の人は着ませんね。あれは廣東の人しか着ないと思います。私は廣東の家に嫁いだので、姑さんからいただきました。

【司会】 昔の習わしとして、婚礼衣装は嫁ぐ側が用意したものでしょうか？

【張雅齡】 私の場合は、主人の衣装は嫁側が造り、ウエディングドレスは私は勝手に作っちゃったんです（笑）。本来、嫁入道具は婿側が用意し、婚礼衣装の反物は婿側から送られて来る。そして嫁側から婿側へ洋服の布地を送るという感じでした。結婚式にはその布地に寄贈した寄贈者の名前やお祝いの言葉が書かれた※a喜帳、当時同發の壁に（結婚式場）一面にずらりと飾られてました。双喜を書いたりして。會長覚えてる？

【周會長】 全然記憶ないです（笑）。

【張雅齡】 それは廣東だけの風習みたいですね。

【周會長】 田舎によってだいぶ違うようですね。

【司会】 雅齡さんと伊藤先生との繋がりはいつ頃から、何がかっかけでしょうか？

【張雅齡】 なんとなくご縁があるのよ。もう古いお付き合いですね。

【伊藤】 最初が思いだせません（笑）。「トムサン・テイラー」を調べたのがきっかけでしょうか？

今回の企画展では張さんから本当に素晴らしい



9月21日に行われた座談会の様子

※a【喜帳】
お祝い事の時に友人がその家に贈る品のひとつで真紅の絹地に金紙を切り抜いた文字で祝いの言葉を貼ったもの。



※2 母と私 1955 年頃 【写真所蔵：區 傳宗】



※3 後から裾が縫ぎ足された旗袍

【伊藤】展示会で来場者にアンケートをとったのですが、その中で好評だったのが「母の肖像」です。このコーナーをつくらうと思ったきっかけがこちらの写真です。1955年頃※2この写真を撮った時のこと、區さん覚えていらっしゃいますか？

【區監事】全然覚えてないんですよ。5〜6歳の時かな。年に一度、記念写真みたいなのを伊勢佐木町の角の南風スタジオでよく撮っていました。成人してからは、なかなか撮らなくなりましたよ。昔は写真を撮ってくれる人がいなかったですからね。外国人登録書を取る為に、写真を撮ってましたね。

【伊藤】実は街のいろんな方から「區さんのお母様がすごくお洒落な方」と聞き、區さんのお店

くなってしまいますね。

【伊藤】ある意味、そういうものがまだ途絶えないで残っているというのは凄いですよね。

【張雅齡】今の若い人には、難しいですね。

【伊藤】區さんのお店「楊貴妃」は區さんのお母様がはじめられたのですか？

【區監事】いえ、私がはじめました。
【張雅齡】區さんのお母様はとてもおしゃれで、それを小さい時から見ていて無意識に影響を受けているのよ(笑)。

【区傳宗】そうかな(笑)。

【司会】お母様のお洋服は普段どのようなに保管されていたか？

【區監事】ずっと家内が家で保管していました。娘が着たいということでも…普通は捨てちゃったり燃やしたりするけれど、奇麗に保管されていたので。

【伊藤】奥様のお母様の品もありましたよね？
そちらもとても素晴らしい品でしたが、今回の展示は「横浜華僑」というタイトルでしたのでお借りしなかったのですが（奥様のお母様は神戸出身）。

【司会】區さんの奥様も神戸出身ですが、ご結婚のきっかけはお見合いですか？

【區監事】そうですね、あの頃は中華街の長老のお婆さんがいて、お世話してくださり、お見合いみたいなものですね。

【司会】奥様も廣東出身ですか？

【區監事】私は廣東ですが、嫁さんの父は上海、母が廣東です。彼女（奥様）の父親はテイラーの職人でした。

（楊貴妃）に直接伺い、お母様の古い品物はないですか？と訪ねに行きました。

このブルーの旗袍※3はなんと最初ミニスカートで作られています。後から丈が8センチ位縫ぎ足されているという珍しい旗袍でした。若い頃はミニで、少し年齢を重ねてから縫ぎ足したのかは不明ですが…。

【區監事】あの頃は普段着もチャイナ服でしたね。

【伊藤】来場者の中には、ピタツとした正装のチャイナドレスより、普段着のチャイナ服なら着たいという方が沢山いらっしゃいました。

【區監事】知り合いの職人さんに聞いた話ですが、首(襟元)が一番大切でそこがずれちゃうと肩もずれてしまうそうです。実はバンドのゴダイゴがガンダーラを歌っていた時の衣装は私が手配して作っていました。

【司会】そうですね！

【伊藤】この區さんのお母様のお写真すてきですよ。※4

【區監事】場所はどこか覚えていないんだよね、多分結婚式か何かの時かな…。

【伊藤】皆さんエナメルの靴をはいていらっしゃいますよね。以前、獅門酒樓の羅一美さんが「正式な時は靴はエナメルでなければダメ」とおばあ様に言われたとおっしゃっていました。獅門酒樓の一族の古い写真がこれです。（本展図録写真見ながら）百年位前の婚礼衣装で、エナメルの靴をはいていらっしゃる。

【司会】昔、中華街には中国式の靴を売るような店があったのでしょうか？

【區監事】普通の靴屋はあったけど、中国専門の

【伊藤】その方(區さんの義父)が作った旗袍もとてもすてきでした。横浜・神戸・長崎の旗袍を比較したらおもしろそうですね。

【周會長】神戸と横浜は縁深いですが、長崎とはあまりご縁がないような…。

【張雅齡】そうですね、そういわれてみると長崎とはお付き合いがありませんね。距離があるからでしょうか。

【區傳宗】横浜は神戸から来た人が多いですよ。ね。

【張雅齡】一人がきっかけで、神戸や横浜に嫁に行ったり来たり人すれば、その紹介でネットワークが広がるものね。

【周會長】うちの父と母はまさにそれがきっかけです。

【張雅齡】うちの母は横浜生まれですが、関東大震災の時に家が被災して一家総出で神戸に行きましたが、結婚でまた横浜に戻ってきました。私の弟、トムサン・テイラーのトムサンは神戸から嫁をもらったのでこちらの奥様(區さん)の話をよく聞きました。昔から歌や踊りが上手で美人で、まさに芸能一家という感じ。

同級生も横浜から神戸にお嫁に行っている人が多いです。神戸との繋がりは深いですね。

【伊藤】樂園のご長男の奥様が旗袍の作り方を覚えていて、「神戸の実家で母が作っていたのを見ていた」という事でお話を伺ったことがあります。今回の展示で仕立てに使う道具がどのように使われていたのかわかったり、仕立て屋さんの話も聞けてよかったです。

また、「ジョンソン・テイラー」という仕立て屋が昔し山下町にありました。潘宏生さんの

靴屋はわからないなあ。

【張雅齡】私たちの世代は普通の靴でした。祖母が作っていたのは、うちは洋服屋だったからいろんな生地を集めて、中は刺し子の様に刺して補強して、外側を布で覆って中華風のベルトがついた靴をはいていました。

【伊藤】雅齡さんのお母様は、おいくつらいまでチャイナ服を着ていらっしゃいましたか？

【張雅齡】そうですね、普段着はやはりチャイナ服の印象ですね。私は今でも姑の普段着のチャイナ服を着ています。夏涼しくてとてもいいんですよ。

【伊藤】中国や台湾でも若い人は旗袍を着ないですよ。今の中華街では結婚式等で着ますか？

【張雅齡】20年くらい前なら着ていたけど、最近は見ないですね。日本の着物と一緒にですね。

【司会】中国だと理由として文革で伝統が途絶えてしまったのでしょうか？

【伊藤】1970〜80年代に途絶えてしまった背景がありますね。最近「ディスカバーチャイナ」ということで旗袍(旗袍はもともと満州族のもの)より古代三国志の時代の漢服(カンブク)が注目を浴びているそうですね。

【司会】話は飛びますが、雅齡さんの息子さんの中国式での結婚式は凄かったですね。

【張雅齡】うちの主人の希望で、横濱媽祖廟で無理矢理子どもに結婚式をさせました(笑)。同発の協力もあり、結婚式の装飾(飾り付け)を借りて、陳祐國さんに証婚人をやっていたとき中国人前結婚で執り行われました。

【周會長】もうこれから先は、こういう機会も無

お母様が昨年お亡くなりになり、展示を企画しているというのを耳にされ「母の服をどうしようか」とご連絡いただいて、ブラックフォーマル等の旗袍をご寄贈いただきました。その中の一枚のネームタックがその「ジョンソン・テラー」で、この方の娘さん(本展図録P21見ながら)とお孫さんが展示中に来られて、これ我家です…と。

展示を開いた後からもいろいろな繋がりがあり、たくさんの方からご協力いただきました。



※4 おしゃれをした女性たち 【写真所蔵：區 傳宗】

つづきは新巻号で、お楽しみに！